

Spectrum™ Spatial Map Uploader

バージョン 2019.1.0

Spectrum Spatial™

Map Uploader ガイド (MapInfo Pro 16 以前 用)

これは Spectrum Spatial Map Uploader のレガシバージョンであり、Spectrum™ Technology Platform、および、バージョン 16 より前の MapInfo Pro® で使用するために提供されています。

PDF をご希望の場合 [Map Uploader ガイド PDF をダウンロードする](#)

内容

Spectrum Spatial Map Uploader について	3
MapInfo Professional の [ツール] メニューへの Uploader の追加	4
HTTPS を使用して SSL 対応の Map Uploader を設定する	5
Spectrum Spatial Map Uploader の言語の選択	5
Map Uploader へのログイン	6
Uploader の [設定] タブ - ファイルベースのデータ	7
Spectrum Spatial へのマップのアップロード	7

付録 A - サポート対象のレイヤおよびテーブルのタイプ	8
付録 B - Named Resources	10
付録 C - リポジトリ パス	11

Spectrum Spatial Map Uploader について

Map Uploader は、マップワークスペースを、そこで使用されるレイヤとテーブルを含めて MapInfo Professional から Spectrum Spatial にアップロードできるツールです。ようこそページの [Spectrum Spatial] セクションにある、[ユーティリティ] タブの [Map Uploader] からダウンロードできます。

マップワークスペースのレイヤには、MapInfo Professional で作成したスタイル オーバーライドや主題図を含めることができ、これらはアップロードに含まれます。

アップロードユーティリティは、ワークスペースの名前付きマップを作成し、名前付きレイヤと名前付きテーブルを分離します。

実際のデータは元の場所に保持されるため、アップロードされず、名前付きテーブルによって参照されます。名前付きレイヤには、データをマップに表示するときのスタイルまたは主題図に関する情報が含まれます。

必要条件

Spectrum Spatial Map Uploader を使用するには、以下のものがが必要です。

- MapInfo Pro 15 以上

注：MapInfo Pro 16 を使用する GeoPackage ファイルの場合、Map Uploader は動作しません。

- Microsoft .NET Framework 4.5 以上 (これは MapInfo Pro の一部としてインストールされます)
- Spectrum Spatial 11.1
- 管理者の役割を持つ Spectrum ユーザ
- ファイルベースまたはサポート対象データベース (Oracle、SQL Server、または PostGIS) のすべてのテーブルに対する、Spectrum Spatial でデータソースへのアクセスに使用する名前付き接続

注：名前付き接続は、Spectrum Spatial™ Manager で作成します。名前付き接続の作成の詳細については、『Spectrum Spatial ガイド』の Spectrum Spatial™ Manager に関するドキュメントを参照してください。

MapInfo Professional の [ツール] メニューへの Uploader の追加

Spectrum Spatial Map Uploader は、ようこそページの [Spectrum Spatial] セクションにある、[ユーティリティ] タブの **[Map Uploader]** から、MapInfo Professional プラグイン ファイルとしてダウンロードできます。

1. **[Zip をダウンロード]** をクリックして、map-uploader.zip ファイルを保存します。このファイルを MapInfo Professional からアクセスできる場所に解凍します。このプラグインは、他の MapInfo Professional プラグインがインストールされている場所、または C:\Program Files(x86)\MapInfo\Spectrum Spatial Map Uploader に置くことをお勧めします。
2. Mapinfo Professional を起動します。
3. MapInfo Professional の [ツール] > [ツール マネージャ] メニューに移動します。[ツール マネージャ] ダイアログ ボックスが開きます。
4. **[ツールを追加]** ボタンをクリックし、Spectrum Spatial Map Uploader の MBX ファイルが置かれている場所を参照して、「SpectrumMapUploader.MBX」を選択したうえで **[開く]** をクリックします。
5. ツールのタイトル (Spectrum Spatial Uploader など) と説明 (任意) を追加します。
6. **[OK]** をクリックします。
7. **[読み込み]** および **[自動読み込み]** チェック ボックスが選択されていることを確認してください。
8. **[OK]** をクリックします。

これで、MapInfo Professional を開くと常に Uploader が [ツール] メニューに表示されます。

インストールを確認し、Map Uploader を起動するには

1. Mapinfo Professional を起動します。
2. MapInfo Professional の [ツール] > [ツール マネージャ] メニューに移動します。[ツール マネージャ] ダイアログ ボックスが開きます。
3. **[Spectrum Spatial Map Uploader]** を選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

注：プラグインが起動時に IOException を発生し、ファイル **upload-settings.config_** を参照する場合は、このファイルをエラー メッセージから削除し (通常は、%appdata%\MapInfo\Spectrum Spatial Map Uploader\upload-settings.config_)、アプリケーションを再起動します。

HTTPS を使用して SSL 対応の Map Uploader を設定する

Map Uploader が Spectrum サーバーとの間で HTTPS 通信を使用し、SSL に対応するようにするには、Uploader.config ファイル内の設定に変更を加える必要があります。

注：設定変更は、Map Uploader を MapInfo Pro に読み込む前に行う必要があります。

設定を変更するには

1. Uploader.config ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルは、map-uploader.zip ファイルを解凍した場所にあります。
2. この設定ファイルの SpectrumServiceSoapBinding セクションで、セキュリティ セクションを次のように変更します。

```
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Basic" proxyCredentialType="None"
    realm="DCGRealm" />
  <message clientCredentialType="UserName" algorithmSuite="Default" />
</security>
```

3. Uploader.config ファイルを保存します。

これで、プラグインを MapInfo Pro に読み込み、HTTPS を使用して SSL で Spectrum™ Technology Platform サーバーに接続できます。

Spectrum Spatial Map Uploader の言語の選択

Spectrum Spatial Map Uploader では、使用する言語を選択できます。そのためには、Uploader.config ファイル内にある appSettings の lang フィールドで、特定の言語コードを指定する必要があります。このファイルは、Map Uploader を展開した場所にあります。デフォルトでは、lang フィールドは空白でシステムのデフォルト言語が設定されています。

以下の言語がサポートされています。

言語	コード
ウェールズ語	cy
デンマーク語	da
ドイツ語	de
英語 - デフォルト	ja
英語 - オーストラリア	en-au
英語 - イギリス	en-gb
スペイン語	es
フィンランド語	fi
フランス語	fr
日本語	ja-JP
オランダ語	nl
ポルトガル語	pt
スウェーデン語	sv

Map Uploader へのログイン

Map Uploader をインストールした後、MapInfo Pro ツール メニューから Map Uploader を起動してログインする必要があります。

注：Map Uploader の起動前に、MapInfo Pro でマップを開いておく必要があります。

Spectrum Spatial Map Uploader を開くには

1. [ツール] > [Spectrum Spatial Map Uploader] を選択して、アップローダーを起動します。
2. [サーバー] テキスト ボックスに、Spectrum Spatial サーバーの URL を指定します。
3. [ユーザ名] テキスト ボックスと [パスワード] テキスト ボックスに認証情報を入力して、**Spectrum Spatial Map Uploader** にログインします。ユーザがすでに作成され、管理役割のメンバーになっている必要があります。
4. (オプション) データのアップロード時に作成されたサービス リクエストのログ ファイルを作成するには、[ログを有効にする] チェック ボックスをオンにします。Spectrum Spatial Map

Uploader のログ ファイルの場所は、%AppData%\Pitney Bowes\Spectrum Spatial Map Uploader\log\messages.log です。

5. **[ログイン]** をクリックします。

Uploader の [設定] タブ - ファイルベースのデータ

ファイルベースのデータを使用するマップをアップロードする前に、正しい名前付き接続とデータへの相対パスが、[設定] タブに追加され、保存されていることを確認する必要があります。Spectrum は名前付き接続を使用し、その接続に相対パスを付加することによって、データにアクセスします。

ローカルパスとサーバーパスを入力するには、次の手順を実行します。

1. **[Spectrum Spatial Map Uploader]** > **[設定]** タブを選択します。
2. ドロップダウンリストから **[名前付き接続]** を選択します。サーバーソースフォルダが表示されます。これは、名前付き接続が参照する、サーバー上のデータディレクトリの場所です。
3. 必要に応じて、**[データへの相対パス]** を入力します。サーバー上のデータがサーバーソースフォルダに存在する場合は、このフィールドを空白のままにすることができます。データが、名前付き接続で定義されているサーバーソースフォルダのサブフォルダに存在する場合は、フォルダ構造を追加する必要があります。例えば、名前付き接続が `/NamedConnections/TestData` で、実際のデータが `TestData` フォルダの中の `World` というサブフォルダに存在する場合、相対パスは `/World` となります。
4. **[適用]** をクリックします。

Spectrum Spatial へのマップのアップロード

Spectrum Spatial へマップをアップロードするには、次の手順に従います。

1. **[Spectrum Spatial Map Uploader]** > **[アップローダー]** タブを選択します。
2. **[マップ名]** テキストボックスに、マップ名を入力します。
3. **[マップをアップロード]** を選択して、アップロード時に名前付きマップを作成します。これを選択しない場合、名前付きテーブルのみがアップロードされ、マップは作成されません。
4. **[リポジトリパス]** テキストボックスに、Spectrum の特定のフォルダにリソースをアップロードするためのパスを入力します。**[参照]** をクリックして、リポジトリ内のフォルダの場所を選択します。リポジトリブラウザで任意のフォルダを右クリックすることにより、新しいフォ

ルダを追加できます。フォルダの選択を終えたら、[OK] をクリックします。フォルダ名の指定方法の詳細については、「付録 C」を参照してください。

5. 各テーブルに対し、対応する JDBC 名前付き接続を選択します。ファイルベースの名前付き接続に対しては、最初に Map Uploader の [設定] タブを設定しておく必要があります。
6. [アップロード] をクリックします。

留意点:

- すべての名前付き接続 (ファイルおよびデータベース) について、Map Uploader を使用する前に、Spectrum Spatial™ Manager を使用してこれらを作成する必要があります。Spectrum Spatial™ Manager の詳細については、『Spectrum Spatial ガイド』を参照してください。
- Oracle、SQL Server、または PostGIS データベース テーブルを指しているテーブルのアップロード時には、そのタイプに対応する名前付き接続を選択する必要があります。名前付き接続がない場合、これらはサポートされていないテーブルとしてマークされます。
- ファイルベースのテーブル Native、Shape、Raster、または Grid のアップロード時には、そのタイプに対応するファイルベースの名前付き接続を選択する必要があります。名前付き接続がない場合、これらはサポートされていないテーブルとしてマークされます。
- サポートされていないテーブルは赤色の×印でマークされます。この場合もその他のテーブル (緑色のチェックマーク付き) はアップロードできますが、サポートされていないテーブルはアップロードされず、これらのテーブルは Spectrum Spatial のマップに含まれません。
- アップロード時に名前付きテーブルが作成される場合は、それらに名前付き接続への参照が含まれます。インライン接続定義を使用する場合は、名前付きテーブルは作成されません。
- 一部のジオメトリ (Collection、Multi-Point、Ellipse) はサポートされていません。
- 一部のサポートされていないテーブルについては、「付録 A」にあるリストを参照してください。
- 作成される名前付きリソースの詳細については、「付録 B」を参照してください。

付録 A - サポート対象のレイヤおよびテーブルのタイプ

MapInfo Professional で使用されるすべてのレイヤおよびテーブルのタイプが Spectrum Spatial でサポートされているわけではありません。以下のリストにサポート対象/未サポートのレイヤおよびテーブルのタイプを示します。

サポート対象のテーブルおよびレイヤのタイプ

以下のレイヤおよびテーブルのタイプがサポートされており、常に緑色のチェックマーク付きで表示されます。

- イメージ (ラスタ) レイヤおよびテーブル
- 主題図レイヤ (範囲、個別値、ドット密度の主題図は、ソースレイヤの一部として含まれ、使用するスタイルを定義します。サイズ可変シンボル、棒グラフ、円グラフの主題図は、ソースレイヤに加えて個別レイヤとしてアップロードされます)
- グリッド レイヤおよびテーブル
- DBF テーブル
- ネイティブ テーブル
- Shape テーブル (Shapeファイル)

注：TAB ファイルは、ツール メニューからシェイプファイルを作成するためのユニバーサルトランスレータでは作成されません。

以下のテーブルは、名前付き接続が存在する場合のみサポートされます。名前付き接続がない場合は、サポート対象外として表示されます。Map Uploader は、選択された名前付き接続でテーブルが使用可能かどうかを検証しないことに注意してください。選択した接続がそのテーブルに対して適切かどうかを確認するのはユーザの責任です。テーブル名は TAB ファイルから取得され、残りの接続詳細 (データベース スキーム/所有者など) は名前付き接続から取得されます。

- ODBC ライブ テーブル
- ODBC リンク テーブル
- Oracle ライブ テーブル
- Oracle リンク テーブル

Map Uploader は任意の ODBC テーブルをアップロードできますが、Spectrum Spatial がテスト済みでサポートするのは、以下の RDBMS のみです。

- Oracle
- SQL Server
- Post GIS

未サポートのレイヤおよびテーブルのタイプ

次のレイヤおよびテーブルのタイプは未サポートで、常に赤い十字のマーク付きで表示されます。

- システム レイヤ
- WMS/WMTS レイヤおよびテーブル
- タイル サーバー レイヤおよびテーブル
- 結果テーブル
- ビュー テーブル
- WFS テーブル
- FME テーブル
- Access テーブル
- ASCII テーブル
- XLS テーブル
- XY テーブル

名前の重複の問題

MapInfo Professional では、同じまたは異なる場所から同一のテーブルを開き、マップ内のレイヤとして何度も追加することができます。Spectrum™ Technology Platform では、各マップの同じレイヤが複数回アップロードされることはありません。なぜなら、Spectrum でサポートされていない重複レイヤが作成されることになるからです。この場合、アップローダーで最初のレイヤはアップロードできますが、残りのレイヤはアップロードされません。同じレイヤを、スタイルオーバーライドや設定などを変えて複数回アップロードしたい場合は、アップロード可能な新しいマップにそのレイヤを追加してください。

付録 B - Named Resources

マップをアップロードすると、アップロード ユーティリティで指定したパスの下のリポジトリに、次の 3 つのフォルダが追加されます。

- NamedMaps
- NamedLayers
- NamedTables

アップロードしたすべてのテーブルに対して、名前付きテーブル リソースが **NamedTables** フォルダに追加されます。このリソースには、TAB ファイルへのパス、またはデータソースへの接続詳細が含まれます。レイヤ情報 (スタイル、ズーム レイヤ設定、ラベル設定など) は名前付きテーブルに保持されません。

マップをアップロードすると、名前付きマップとして作成され、NamedMaps フォルダに追加されます。

さらに、レイヤごとに名前付きレイヤが作成されます。名前付きレイヤは NamedLayers フォルダに追加されます。

名前付きマップと名前付きテーブルの組み合わせごとに、別の名前付きレイヤが作成され、次のように生成された名前が付けられます。

```
<Named Map Name>_NM_<Named Table Name>
```

ラベルが有効になっている場合は、個別のラベルレイヤが作成され、そのレイヤに個別値、円グラフ、または棒グラフの主題図があれば、その主題図ごとに別のレイヤが作成されます。これらの名前は次の命名規則に従います。ここで、ID は MapInfo Professional のレイヤに割り当てられた識別番号です。

```
<Named Map Name>_NM_<Named Table Name> Labels
<Named Map Name>_NM_<Named Table Name> Graduated Symbol Theme IDxx
<Named Map Name>_NM_<Named Table Name> Bar Theme IDxx
<Named Map Name>_NM_<Named Table Name> Pie Theme IDxx
```

次の図は、上記のレイヤタイプをすべて含むマップの例で、名前付きリソースがどのように作成されるかを示しています。

図 1 : 例

<input checked="" type="checkbox"/>	Cosmetic Layer		/NamedMaps/CamdenMap
<input checked="" type="checkbox"/>	Trees		/NamedLayers/CamdenMap_NM_ConservationAreas
<input checked="" type="checkbox"/>	ListedBuildings		/NamedLayers/CamdenMap_NM_ConservationAreas Labels
<input checked="" type="checkbox"/>	Bars with PC_Rented_from_housing_associa_PC_Rented_		/NamedLayers/CamdenMap_NM_Housing Census
<input checked="" type="checkbox"/>	Pies with PC_Rented_furnished_PC_Rented_unfurnished_		/NamedLayers/CamdenMap_NM_Housing Census Bar Theme id10
<input checked="" type="checkbox"/>	Graduated by PC_Buying		/NamedLayers/CamdenMap_NM_Housing Census Graduated Symbol Theme id17
<input checked="" type="checkbox"/>	Ranges by PC_Owned_outright		/NamedLayers/CamdenMap_NM_Housing Census Pie Theme id14
<input checked="" type="checkbox"/>	Housing_Census		/NamedLayers/CamdenMap_NM_ListedBuildings
<input checked="" type="checkbox"/>	PlanningApplications		/NamedLayers/CamdenMap_NM_ListedBuildings Labels
<input checked="" type="checkbox"/>	OpenSpaces		/NamedLayers/CamdenMap_NM_OpenSpaces
<input checked="" type="checkbox"/>	ConservationAreas		/NamedLayers/CamdenMap_NM_OpenSpaces Labels
			/NamedLayers/CamdenMap_NM_PlanningApplications
			/NamedLayers/CamdenMap_NM_PlanningApplications Labels
			/NamedLayers/CamdenMap_NM_Trees
			/NamedTables/ConservationAreas
			/NamedTables/Housing Census
			/NamedTables/ListedBuildings
			/NamedTables/OpenSpaces
			/NamedTables/PlanningApplications
			/NamedTables/Trees

付録 C - リポジトリパス

リソースをアップロードするとき、必要に応じて、リソースを追加するリポジトリフォルダを [リポジトリパス] テキストボックスに指定することができます。既存のフォルダでも、まだ存在しない新しいフォルダでも構いません。フォルダが存在しない場合、アップロードユーティリ

ティによってフォルダが作成されます。また、**付録 B** で説明したように、NamedMaps、NamedLayers、および NamedTables という 3つのサブフォルダもアップロードユーティリティによって作成されます。

[リポジトリパス] を空白のままにするか、"/" のみを使用した場合、リソースはルートフォルダの下に追加されます。ルートは常に "default" というフォルダです。そのため、この場合、アップロードユーティリティはリソースを次のようなサブフォルダに追加します。

```
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/NamedMaps
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/NamedLayers
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/NamedTables
```

単一のフォルダ名を指定すると、例えば "DemoMaps" の場合、次のようにリソースが追加されます。DemoMaps がフォルダとして存在しない場合は作成されます。

```
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/DemoMaps/NamedMaps
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/DemoMaps/NamedLayers
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/DemoMaps/NamedTables
```

複数レベルのフォルダを指定することもできます。例えば、"DemoMaps/EnvironmentProject" のように指定します。この場合、次のようにリソースが追加されます。

```
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/DemoMaps/EnvironmentProject/NamedMap
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/DemoMaps/EnvironmentProject/NamedLayer
http://<server>:<port>/RepositoryService/repository/default/DemoMaps/EnvironmentProject/NamedTable
```

注： フォルダを指定する場合、必ず、バックスラッシュ "\" ではなく、スラッシュ "/" を使用してください。



3001 Summer Street
Stamford CT 06926-0700
USA

www.pitneybowes.com